

だい
第1
ステップ



こうせいを まな 学ぶ



おうちの方へ

文法を学び、発想力を身につけることが作文の基本ですが、もう一つ大事なことがあります。それは構成力です。どんなにおもしろいことを思いついても、構成力がなければ、それをほかの人に理解できるような形で表現できません。

昔から「起承転結」などの構成が伝えられていますが、そのような構成を体で覚える必要があります。それによって、作文を書くときにも、入試などで小論文を書くときにも役に立つ構成力が身につきます。

私たちは、「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」（左のコラム参照）という構成の形式を提唱しています。そうした構成がここで知らず知らずのうちに身につくように工夫しています。

なかには、「構成の形式を教えると、せつかくの子どもの個性を奪ってしまう。」という方がいます。しかし、構成ができないと、どんなにおもしろいことを考えていても、それを伝えることができないのです。このような考えに沿って、ここでは構成力を身につけていきます。

作文の構成は 「ホップ・ステップ・ ジャンプ・着地」

「形式を気にすると、個性がなくなってしまう。」と言う人がいます。

戦後、日本の学校では、そのような考えに基づいて、作文の書き方も感想文の書き方もきちんと教えられませんでした。「自由に書けばいいんだよ。」「自分のことばで、書きたいことを書けばいいんだよ。」、そのように教えられてきました。

しかし、自由に書けと言われても書けないものです。むしろ私は、「自由に書け」という作文教育のために、日本人は作文を書けなくなってしまうと考えています。

なぜ、バッハやモーツァルトはあのような奇跡のような名曲をた

くさん書けたでしょう。それは、形式があつたからです。舞曲の形式、ソナタ形式などに基づいて書いたからこそ、その中に豊かな個性を織り込むことができたのです。形式があつたからこそ、个性的でいられたのです。もし形式がなければ、毎回どのように書くかと悩み、せっかくの個性をみんなにわかるような形で発表できなかったのではないのでしょうか。

基本に忠実に！

マンガもドラマも「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」

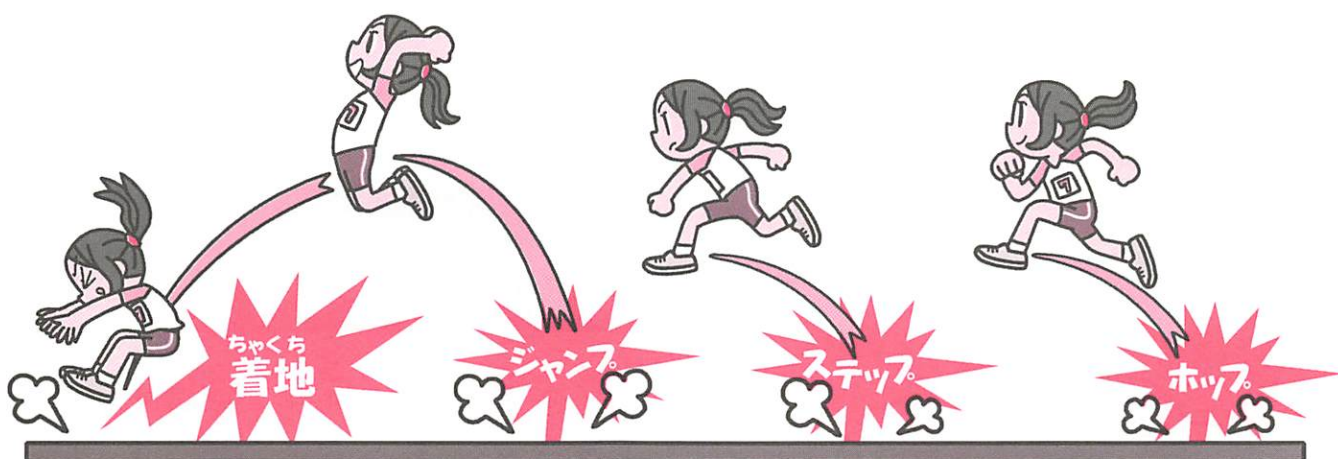
作文にも同じことが言えます。少なくとも初めのうちは形式に当てはめて書く練習をして、上手になってから自分なりの工夫をするというのが、最も効果的で確実な方法です。

昔は、作文は「起承転結」で書き、とよく言われました。それをみなさんにもわかるように説明すると、「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」ということになります。

たとえば、四コママンガがこの形式で書かれています。最初のコマがホップです。ここで事件が起こります。次のコマがステップです。ここで事件の続きが描かれます。次がジャンプです。ここで「飛躍」が起こり、様子が変わります。そして、最後が着地で、オチということになります。

ほとんどの四コママンガがこのような形式になっています。いえ、四コママンガだけではありません。テレビドラマもストーリーリーマンガも、同じような作りになっています。

たとえば、『ドラえもん』もそうです。ホップの部分で、のび太がジャイアンたちにいじめられて、それを助けるためにドラえもんが不思議な道具を出します。ステップの部分で、のび太がその道具をふつうに使います。そして、ジャンプの部分で、のび太がドラえもんの注意を無視して道具をでたらめに使って混乱を起こします。この部分が『ドラえもん』のなかで一番おもしろいところです。そ



して、最後、着地の部分で解決されます。『ドラえもん』は多くの場合、このパターンで話が進みます。

おうちの方でも見ておられる方も多いかもしれませんが、サスペンスドラマも同じです。ホップの部分で、殺人事件が起こります。ステップの部分で、犯人らしいと思われる人が殺されたり、その人にアリバイがあつたりします。ジャンプの部分で、ますます謎が深まって、第二の殺人、第三の殺人などが起こります。そして、「着地」で、事件が解決して、よく海辺で犯人が自白したりします。

もちろん、違った作りのものもありますが、こうした「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」というのが基本であることは間違いありません。

このような形式に慣れるのが、作文上達の近道です。そして、十分に使いこなせるようになったら、自分独自の、違った形を工夫すればよいのです。

つぎの文を、時間のじゅんに気をつけて、
お話がつながるようにならべかえましょう。

1

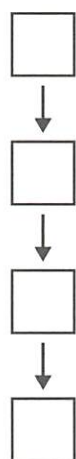
① 友だちはどろぼうの顔を思い出して、絵をかきました。

② わたしには、絵のじょうずな友だちがい
ます。

③ にごお絵のおかげで、どろぼうはつかま
りました。

④ あるとき、友だちはどろぼうを見かけました。

答え



おうちの方への
アドバイス



構成の基本は、
話を順序よく語ることです

まずは、未整理な話を「ホップ・ステップ・ジャンプ・着地」の順に並べ替えさせることによって、自然に順序よく語る力を身につけてもらいます。

ここでは、まず手始めとして、時間の経過どおりに並べてもらいます。もつと複雑な構成については、後で学びます。

お子さんが答えを間違えたら、正解以外の順番では、出来事の流れがおかしいことを理解させてあげてください。それを繰り返すことで、徐々に、時間的な順序が頭に入っていくはずですよ。



2

- ① それを見たわたしは、お母さんをおこしてあげました。
- ② ところが、その自てん車はよその人のもので、地めに足がとどかなくて、ころんでしまいました。

- ③ わたしのお母さんは、いつもそっかしいです。

- ④ ある日、スーパーの帰りに、お母さんは自てん車にのろうとしました。

答え

□ ↓ □ ↓ □ ↓ □

3

- ① わたしのお兄ちゃんは、いつもやさしいです。

- ② お兄ちゃんはおこって、しばらくわたしと口をききませんでした。

- ③ わたしが、お兄ちゃんの40点のテストを見つけて、お母さんに言いつけた

ことがありました。

- ④ でも、ときどきおこることもあります。

答え

□ ↓ □ ↓ □ ↓ □

4

① お父^{とう}さんは、ずっとふきげんでした。

② ある日^ひ、お父^{とう}さんと甲子園^{こうしえん}球場^{きゅうじょう}に、阪神^{はんしん}せんを見^みに行^いきました。

③ でも、10たい0で、阪神^{はんしん}はまけました。

④ わたしのお父^{とう}さんは、阪神^{はんしん}タイガースのファンです。

答^{こた}え

□ ↓ □ ↓ □ ↓ □

5

① おばあちゃん^{おばあちゃん}は、とても心^{しん}ぱいしました。

② おもちや売^うり場^ばで、わたしはまいごになりました。

③ おばあちゃん^{おばあちゃん}と、買^かいものに行^いきました。

④ だから、わたしを見^みつけた時^{とき}、おばあちゃん^{おばあちゃん}はあん心^{しん}したそうです。

答^{こた}え

□ ↓ □ ↓ □ ↓ □

① 家^かぞくみんなで、ドライブをすることになりました。



8

7

- ② しかし、なんと、車がこしようにしていたのです。
- ③ だから、しかたなく、みんなで家にずっといました。
- ④ きのうは、日曜日でした。答え → → →

- ① そこには、とてもきれいなノートがありました。
- ② きのう、文ぼうぐやさんへ行きました。
- ③ でも、お金をもっていくのをわすれて、買えませんでした。
- ④ あきらめて、帰りました。答え → → →

- ① ぼくと犬は、走って家にもどりました。
- ② とちゅうで、雨がふってきました。
- ③ そのせいで、ぼくも犬も、つかれてしまいました。
- ④ きょうの朝、ぼくは犬をつれて、さんぽをしました。

答え

→ → →



① 公園に、ねこがいました。

② すると、ねこが、わたしの手をひっかいたのです。

③ わたしは、ねこがきれいになりました。

④ かわいかったので、つかまえようと思いました。

答え

□ ↓ □ ↓ □ ↓ □

つながりのある
話ができたかな？



① 夏休み、毎日、引き算のれんしゅうをしました。

② とくににが手だったのは、引き算です。

③ わたしは、算数がきれいでした。

④ それで、引き算がとくいになりました。

答え

□ ↓ □ ↓ □ ↓ □

